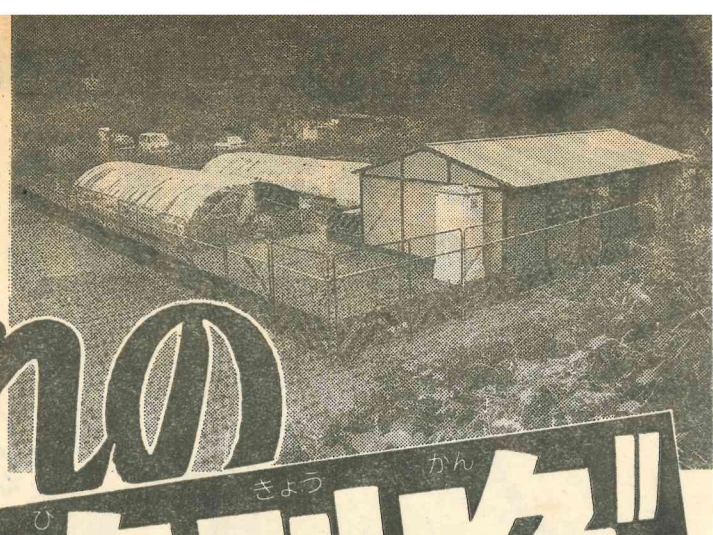


不足、皮膚病 糞尿まみれの

“阿鼻叫喚”

提供された田んぼ跡に建てられた収容所に30頭が保護されている。



糞尿まみれのなか、エサもほとんど与えられない80頭の犬。
そして周囲にはゴミ袋に入れられた多数の犬の死骸——
飼い主が病に倒れ、放置されたままに、阿鼻叫喚の生き地獄だった。

くねくねと折れ曲がる山道を走りながら、タクシーの運転手がい
「一時は、車の窓を閉めとつても、気分が悪くなるほどの悪臭や
ったわ。なにしろ多いときは20
0匹もいて、糞尿はたれ流しやし、
その中に死骸がゴロゴロやっ
たというからねえ」
奈良県天理市から国道25号
線を20分ほど走った、山あいの
集落に、問題の犬の収容所
があった。

悪臭ふんぶんだったという
ブレハブの犬小屋は、一度清
掃されて、どうやら近づける
ようになっていたが、小屋
に近づくと、犬たちが一
斉に吠えたてた。
いまは7頭だけしか
いないが、みんなやせ
こけ、目だけがギラギラ
光っている。少ないな
と思ったら、近くの田んぼ
に応急のビニールハウス

が2棟建てられ、そちらに30頭ほど収容されている。

なお、弱りきっていた20頭ほどは、市の保健所や動物病院に収容されて手当てを受けている。

近所の人が語る。

「いまは、これでもようなりまし
たわ。県が出てくるまではもうひ
どい状態だね、80頭ほどがタレ流
しの状態で、もう2000〜3000
メートルも近づくと、ものすごい
悪臭でよう近寄れなんだわ」
住民の苦情から、県も放ってお
けなくなつて、9月になつて犬の
保護、犬舎の清掃にかかったが、
すごい作業になつてしまった。

「もう小屋のまわりは、ごみと糞
尿の山でね、足を踏み入れる場所
もなかったですよ。延べ100人
が4日かかって、犬を収容し、小
屋を清掃したけど、気分が悪くな
つたり、2〜3日、ご飯が食べら
れなくなった職員が続出しました
よ。なにしろ糞尿の中に死骸がゴ
ロゴロといった状態でしたから、
無理ありませんよ」(奈良県保



重症の犬たちは保護されブレハブの収容所にいるが、比較的元気な犬たちは、清掃された元の場所に残っている。

健康環境部、南佳策次長)
この収容作業に立ち会った県保
健康生課の泉幸宏獣医も、収容時
の悲惨な状況をこう語る。

「ほんとにものすごい状態でした
ね。糞尿が溜つた中で犬たちは暮
らしてたんですよ。なにしろ長
靴がズブズブ10センチぐら
いはいつてしまいうぐらい糞
尿が溜つてたんですから。そ
の中に、死んでころがってる犬も
いましたし、もうものすごい悪臭
で……。極度の栄養失調で、もう
エサを受けつけなくなったのも4
〜5頭いましたよ」
近所の人のこんな声もあった。

「大掃除でやつときれいになつた
けど、そのときまで小屋のまわり
に置きっぱなしだったゴミ袋には、
ゴミだけではなく犬の死骸が入っ
ていました。その量はなんとトラ
ック1台分もありました」
どうしてそんな悲惨な状況にな
つたのか？
いったい誰がこの犬の収容所を
つくつたのか？